

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第10号）」について（送付）。

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第10号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。この情報はホームページ（以下URL）にも随時公開しています。
<https://www.pref.saga.lg.jp/kiiji00323270/index.html>

杵島農業改良普及センター

検索

1. 気象概況

アメダス観測値（白石）

月	半月	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R2 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R2 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R2 (hr)	平年比 (%)
7月	1	25.2	23.6	-1.6	29.2	28.1	-1.1	22.1	20.5	-1.6	81.6	16.5	20	18.8	18.1	96
	2	25.9	24.6	-1.3	30.1	27.3	-2.8	22.8	21.9	-0.9	68.8	541.0	786	22.8	9.3	41
	3	26.6	24.1	-2.5	30.9	26.9	-4.0	23.3	21.9	-1.4	58.3	57.5	99	25.5	2.0	8
	4	27.1			31.7			23.7			48.5			28.7		
	5	27.5			32.4			23.9			39.2			32.9		
	6	27.8			32.9			24.1			36.3			42.8		

- 7月に入り、気温は平年に比べて1～2°Cほど低く推移した。また、断続的な降雨により日照時間は平年に比べ寡照傾向であった。
- 7月6日～7日にかけての豪雨（355mm）、7月9日～10日にかけて豪雨（181mm）があった。

2. 情報田生育概況（調査日：7月15日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 6/14移植 武雄市橋町	本年値	56.9	282	9.3	40.8	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年並み、茎数は平年より少ない。9葉身が異常に伸長している。茎数は15本/株。 主幹出葉数は平年に比べ0.3葉少ない。曇天の影響により出葉の展開が緩やかとなった。 葉色は平年並み。 ※移植後15日以降、間断灌水
	平年値	56.4	351	9.6	40.8	
	平年比	101	80	-0.3	±0.0	
さがびより 6/20移植 武雄市橋町	本年値	41.3	239	8.5	41.2	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年に比べ高く、茎数は少ない。 主幹出葉数は平年並み。 葉色は平年に比べ淡い。 ※移植15日後の落水実施済み。
	平年値	38.9	267	8.4	41.7	
	平年比	106	90	+0.1	-0.5	

※夢しずくの平年値はH21～R1の平均値、耕種概要は稲作情報No7参照

※さがびよりの平年値はH21～R1の平均値。耕種概要は稲作情報No9参照

3. 管内の生育状況（7月17日時点）

- 1) 七夕コシヒカリ：現在、糊熟期となっている。
出穂後の気温が低く日照不足で推移しているため登熟は緩やかである。
本年は早いところで6月26日出穂し、出穂盛期は6月28日～30日となった。
なお、情報田の出穂期は6月29日となった。 平年に比べ1日早く、前年に比べて3日遅い。
- 2) 夢しずく（山間早植え）：5月下旬移植で幼穂形成期～穂孕期である。
（参考）5/23 移植（北方町）：穂孕期（止葉展開中）
幼穂長 15～20mm 葉耳間長 -20～15cm
- 3) 夢しずく（普通期）：現在、分けつ盛期である。移植後の日照不足の影響を受けて、全般的に軟弱徒長ぎみで茎数は少ない生育である。7月2半旬の大雨と日照不足の影響を受けて現在、第9葉身長が異常に伸長している。
- 4) さがびより：現在、分けつ盛期である。夢しずく同様に多雨日照不足の影響で草丈は高く茎数は少なく、軟弱徒長の生育である。
- 5) その他特機事項
 - ・移植後以降の周期的な降雨により、草丈は伸長して軟弱徒長ぎみになっている。また、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）による食害被害を散見される。スクミリンゴガイ及びわき（ガス）の対策として落水処理による対応が実施されている。
 - ・除草剤散布後の豪雨により処理効果の劣るなど、雑草の発生が早い段階で確認されている。特にホタルイやコナギなどの問い合わせが増えた。
 - ・7月6日～7日及び9日～10日にかけての豪雨により冠水した地域がある。

3. 今後の管理

1) 七夕コシヒカリ

(1) 水管理

「コシヒカリ」は、糊熟期です。

出穂期後の水管理は、根への酸素供給を図るためにも常時湛水するのではなく間断灌水（潤土管理）を行いましょう。

登熟（米の充実）を良くするため、収穫1週間前までは黒乾～湿潤状態を保ってください。

2) 山間早植え水稻（主に夢しずく）

- ・水管理は間断灌水を実施する。今後、生育ステージ（品種によって異なる）は幼穂形成期～穂孕み期である。長雨曇天の影響を受けて全般的に草丈は高く葉色は濃い。
- ・本年は山間早植え水稻において「いもち病」が確認されているので、発生状況等によっては臨機防除を行う。

3) 普通期水稻

- ・全般的に麦わら等の施用によるガス発生、連続降雨による流れ葉、スクミリンゴガイの食害により分けつ抑制が散見された。また、7月に入り日照不足の影響もうけて出葉展開が緩やかとなっている。
- ・水管理は、移植後の連続降雨により常時湛水した圃場ではガス（湧き）の発生が目立っている。ガス（湧き）がみられれば風のない穏やかな日に時々落水する。（移植15日、25日の落水処理）特に、足を踏み入れずに自然に気泡が出るようであれば直ちに落水する。
- ・スクミリンゴガイが多い圃場では、深水状態が被害をさらに助長するため、ごく浅水管理（場合によっては足跡水管理）に努める。また食害が多い場合はメタアルデヒド剤等で防除する。
- ・置き苗に葉いもち病の病斑を確認しているため、すみやかに除去する。
- ・本年は、代掻き作業後の降雨により田植え作業が計画より遅れて実施している圃場も多い。そのため、田

植えまでの期間があいたおり、雑草が早めに発生し、除草剤の効果が十分発揮できていない圃場も散見される。特に「ホタルイ」の発生を確認しており、問い合わせも多い。薬剤の使用時期等の登録内容に留意して中後期除草剤の対応が遅れないように処理する。

- ・移植後の長雨曇天の影響を受けて、生育は全般的に茎数不足で推移している。現在、水管理は間断灌水であるが、そのまま落水期間を徐々に長めにとりながら中干し作業に移行する。

本年は茎数が少ないものが、中干し作業は遅くとも移植後35日～40日まで移行する。

ただし、有効茎歩合（1株あたり20本目安）確保できていない場合は強めの中干しを控え、幼穂形成期までに軽めの中干しとするなど、茎数の確保に努める。「夢しずく」においては、倒伏防止のために株元の土を固める必要があり、黒乾（1cmの割れ）程度の中干しを行う。

なお、中干しの草丈の目安は、「夢しずく」が45～55cm、「ヒノヒカリ」及び「さがびより」は40～50cmの間が目安である。中干し期間は5～7日天候や土壌の種類、漏水の程度などにより変わってきますが、圃場の硬さの目安は軽く足跡が付く程度で、小さなヒビが入るくらいです。

つまり「歩いて足跡が付くが抵抗なく歩ける硬さ」が理想。

本年は全般的に茎数が少ないため、手のひらが縦にはいるようなヒビ（強い中干し）は、強い断根を伴い稲にとってダメージが大きくなるので避ける。

- ・いもち病は、6月上旬までの移植のものまで、病斑を確認している。特に、風により茎葉の損傷や稲体の活力低下なども加わっているため、葉いもち発生に注意して観察し進展型病斑が認められれば臨機防除を実施する。

(3) 病害虫の発生状況

1) いもち病

【山間早期水稲】

- ・葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を徹底するとともに、発生が多いと予想される場合には穂揃い期にも防除を行う。

【普通期水稲】

- ・圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。
- ・葉いもちの発生に注意して観察し、進展型病斑が認められれば早急に臨機防除を実施する。その場合、オリブライト粒剤等を使用する（ただし農薬適用に留意する）
- ・窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理を行なう。
- ・BLASTAM情報第6号は別紙参照。BLASTAM（ブラスタム）は、いもち病菌の感染に適した条件が表れたかを判定するモデルである。ブラスタムで好適条件が現れた場合、約1週間後からいもち病の初発あるいは病斑数が急激に増加することが予測されるので注意する。

2) ウンカ類

- ・ライトトラップ等における海外飛来性害虫であるセジロウンカ等の飛来は、6月11-12日頃、6月26-27日頃、7月6-11日頃が中心である。セジロウンカとともにトビイロウンカも飛来していると考えられる。



間断灌水

水尻をとめて自然落水で田面の水がなくなり足跡の底に水がたまる状態を見られたら、入水する



葉いもち病の病斑
葉色が濃い圃場にて確認

(梅雨明けしていないので、今後の飛来状況によって留意する)。

セジロウンカ、トビロウンカ、コブノメイガの誘殺状況については別紙参照。

最新データは、佐賀県農業技術防除センター及び長崎県病害虫防除所HPを参照する。

- ・今後の飛来状況や圃場の発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、ひきつづき圃場での発生状況に注意する。

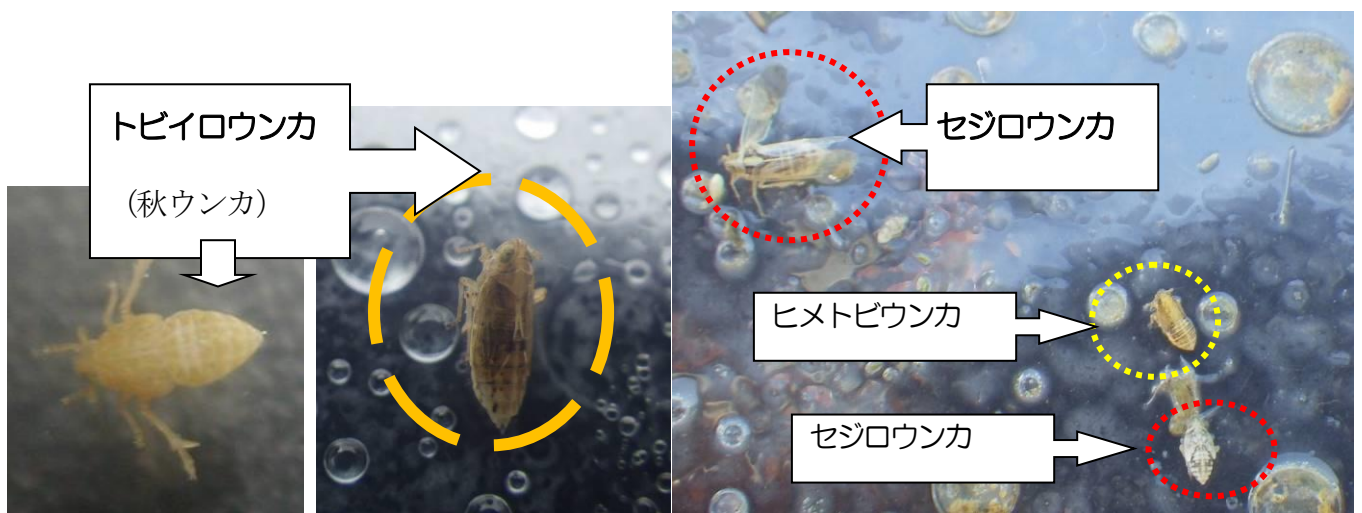
杵島管内におけるウンカ類の払い落とし調査(R2)

25株はらい落とし総数

調査日	セジロウンカ		トビロウンカ		ヒメトビウンカ		備考
	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
7月16日							
5月23日移植	0	1	0	0	0	0	夢しずく(北方町) ※トリフルメゾピリム
6月13日移植	0	1	0	0	0	5	夢しずく(江北町) ※トリフルメゾピリム(播種同時)
6月14日移植	0	2	0	0	0	2	夢しずく情報田 ※トリフルメゾピリム
6月20日移植	0	1	0	0	0	1	さがびより情報田 ※トリフルメゾピリム
6月下旬移植	0	5	0	0	0	0	さがびより(白石町) ※トリフルメゾピリム

※今回の現地巡回調査ではセジロウンカの成虫はすべて長翅型であり、飛来虫と考えられる。

- ・7/14-16 巡回調査ではウンカの産卵や吸汁跡をわずかであるが確認している。幼虫の発生は確認できていない。



ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	○ : 真横
トビロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	○ : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	○ : 斜め後ろ

3) コブノメイガ

- ・葉色が濃い圃場においてコブノメイガの食害が散見される。
- ・コブノメイガの防除適期は、発蛾最盛期の7日後（幼虫ふ化揃い期）である。被害葉が多くみられる圃場では、蛾の発生状況に応じて臨機防除を行う。

5. 大豆作情報

断続的な降雨により、大豆生産予定の大半の圃場では適期の播種作業ができない状況です。7月15日以降の晩播でも一定の収量を確保するため、播種作業では以下のことに注意する。

(1) 播種にあたっての留意点

- 1) 大豆は播種後2日間の酸素要求度が非常に高いため、播種後2日間は降雨により浸水しないことが苗立確保のポイントとなる。播種後2日間の大雨や浸水で発芽率が著しく低下するため、大雨が予想される場合は播種を延期する（無理して播種しない、深播きしない）。
- 2) 荒起しは、なるべく播種前日～当日に行い、播種後に晴天が続く予報であれば、乾燥による発芽率低下が懸念されるため、荒起こしと播種耕起の間隔は空けないようにする。
- 3) 播種量の設定や、種子消毒の励行など基本管理技術の徹底を図る。
- 4) 排水が良い圃場では平畦で播種し、覆土と培土で畦を仕上げる。しかし、降雨が続く場合や排水の劣る圃場は、発芽期の湿害を避けるため、畦を立て播種する。
- 5) 土壌水分が高く、耕起できない場合は麦畦を利用し、耕起を行わず直接麦畦に播種する不耕起播種や部分浅耕播種、逆転ロータリを活用した播種等の技術で播種する。
- 6) 播種深度は、播種後に降雨が多い予報の場合2cmの浅めとし、播種後の鎮圧は行わない。また、播種後に晴天が続く場合は4cm前後の深めにして鎮圧を行う。
- 7) 播種作業には、「畦盛り板」をロータリに装着して畦立て播種すれば、表面排水が良くなるため、湛水による出芽不良を軽減できる。
- 8) 大豆は湿害を受けやすいので、播種完了時に、必ず圃場の周囲に排水路を整備する。

(2) 種子の準備（種子消毒）

- 1) 現在、梅雨の末期にあたり、梅雨が明けると高温乾燥が続く、圃場は水分不足となることが予想されるが大雨等で圃場が多湿となることも多い。
- 2) 多湿条件で播種した大豆は、発芽の遅れや、土中で種子が腐り発芽苗立ちが劣りやすい。そのため、土中で種子の腐敗リスクを軽減するために、種子消毒（キヒゲン）を徹底し、発芽率向上に努める。

(3) 播種方法

雨が多い場合は圃場が乾くのを見ながら、播種を行って下さい。その際は浅播としてください。また、播種後降雨が予想される場合は、出来るだけ畝立播種を行う。また、圃場内に雨水が停滞しないように排水溝等を整備してください。

土壌が乾燥して降雨が期待できない場合はやや深めに播種し、必ず鎮圧を行ってください。

播種を行う場合は

- ①耕起済⇒土壌水分が高い場合は耕起は浅く耕す。
- ②未耕起⇒**粗耕しと播種・耕起の作業を同時に行う(2台のトラクタの組み作業)**

播種後3日間の天気	播種の可否	播種深さ	その他
雨(50mm以上の予想)	播種しない	-	-
少雨(50mm以下の予想)	やや荒目に耕し播種	2~3cm	畝立播種
くもり, 雨(30mm以下)	普通に耕し播種	2~3cm	畝立播種
土壌が乾燥すると予想されるとき	細かく耕し播種	5~6cm	鎮圧する

(4) 播種量

- 1) 大豆の播種適期は7月上中旬であるが、今後の播種は生育量の確保が難しくなるため、栽植密度等を調整する必要がある。播種時期が遅くなると、生育期間が短くなり一株当たりの節数（莢数）が少なくなるため、播種量を増やさないと収量は少なくなる。㎡当たりの莢数確保により、収量を確保するため下記播種様式に従い、播種時期に応じた種子の確保と播種量の調節をする。
- 2) 遅播の場合は生育量を確保する上から必ず元肥を施用する。施用量は窒素成分で4~6kg/10aである。

播種時期 (月/日)	栽植本数 (㎡当り)	栽植様式 (条数) 条間×株間×1株本数	播種量 (/10a)	窒素成分施肥量 (kg/10a)
7/21～7/25	18本	(2条) 75cm×15cm×2本	5～6kg	—
	20本	(3条) 50cm×20cm×2本		
7/26～7/31	24本	(2条) 75cm×11cm×2本	7～8kg	4～6kg
	27本	(3条) 50cm×15cm×2本		

(5) 雑草防除

- 1) 大豆は初期生育が早く、大豆の茎葉が繁茂することで雑草発生を抑制できるので、雑草の発生が少なければ、早めに中耕培土で防除が可能である。
- 2) 雑草発生が目立つ圃場は、播種前に除草剤の非選択性茎葉処理剤（ラウンドアップマックスロード、プリグロックスL等）を散布し、播種直後には土壌処理剤（ラクサー乳剤等）を散布する。散布の際には周辺作物に飛散しないように留意する。
- 3) 大豆生育期（2～5葉期）に中耕培土を実施し、雑草の発生に応じて、生育期処理の茎葉処理剤（ポルト乳剤、アタックショット乳剤等）を散布する。
- 4) アサガオ類やホオズキ類の難防除雑草の発生が多い地域では、圃場内侵入防止に努める。圃場内での発生している場合は、発生が少ないうちに、雑草の開花や結実前までの茎葉処理除草剤のスポット処理や手取りによる徹底防除に努める。

(6) 大雨対策

梅雨時期の水害により予想される被害

- 発芽率の低下は、播種直後のものが最も大きく、播種後24時間以内のものでは、半日の冠水で、発芽率は50%以下に低下する。
- 発芽揃の時期に当たるものの被害は、発芽前のものに比べると小さいが、48時間以上の冠水は枯死株（疫病等）が著しく多くなる。 → 茎の褐変株やしおれ株が全体の3割以上ある場合は、再播種を行う。

梅雨時期の播種に当たっては、以下の点に注意してください。

(1) 梅雨の間の播種対策

- 排水溝の整備や暗渠、明渠の実施などにより圃場の排水に努め、適期播種できるように圃場の準備を行う。
- 降雨後には速やかに排水し、トラクタで耕起可能な状態になれば、天候を確認し、耕起して播種を行う。
- 天候が変わり易い場合は、荒耕起を行わず、1行程で浅く耕起して播種する。
- 不耕起播種機を導入されている地域では、不耕起播種機の有効利用も検討する。

(2) 梅雨明け後の播種対策

- トラクタで耕起できる程度に圃場が乾いたら、耕起のうえ、直ちに播種する。
(可能であれば午後から耕起し、夕方播種するようにする。)